

つなぐ会

1. はじめに

「つなぐ会」のテーマは、地域活動の担い手の「発掘」「育成」をどのように行っていけば良いのかを考えることです。自治会町内会が抱えている担い手問題について地域の皆さまに、少しでも役に立つ助言、提言、提案をすることを目指してスタートしました。テーマを構成する要因が多様化しているために、ともすると理想郷を作る概念だけで終わってしまう可能性があるため、現実を踏まえた諸問題の解決方法に焦点を絞り、協議を重ねてきました。

発足時は 12 名で活動を始めましたが、諸事情により期末時のメンバーは 8 名になりました。



2. 活動の内容

原則として毎月第三水曜日に定例会を開き、当初は目的達成のためのプロセスを討議し、以後各委員の経験、知識を題材に協議してきました。しかし、限られた人数での協議では情報不足で、総合的な見地から見ると偏りが出やすいとの判断から、後半は広く「現場感覚」の情報や意見を取り入れる方法として、アンケート調査を行うことにしました。アンケート調査は、自治会町内会のイベント会場や、区民協議会主催の「地域のつどい」の会場等で行いました。

3. アンケート調査からの考察

アンケート（別紙参照）の設問は、現在自治会町内会の役員（三役（会長・副会長・会計）、専門部役員）と、役員以外の方の二つに分けて設定し、調査を行いました。

現在役員になっている方は年齢的には高齢者が多く、担い手がいないと回答した方が半数を超えているということは、担い手問題に直面している状況であるということをお知らせしています。

つなぐ会としては、役員以外の方の「役員にならない理由」に注目しました。調査の結果を分析すると

- ①現状の仕事との兼ね合いで、時間のゆとりがない。
- ②住民との話し合い不足によって、地域活動の必要性や重要性が理解されていない。

等の実態が明らかになってきました。

時間のゆとりがないと答えた人がいる半面、ボランティアには協力する、でも役員にはなりたくない、という人も多い実情に対して、現在の町会役員がどのような対応を行うのがよいのか、例えばふた月に一回でも時間の許す範囲で参加していただける方があれば受け入れるような体制が、現在の町会役員で取れないのか等が課題として考えられます。

また、アンケート回答者のコメントに、地域に長く居住している人と近年他の地域から転入してきた人との話し合いが不十分、との記述がありました。一例として、他から転居してきた人々は、子ども会やPTAの活動等のきっかけがないと地域の活動に参加しにくいなどの実情があるということです。地域活動と情報伝達の在り方に、創意工夫が必要と思われる。

今回実施したアンケートは、神奈川区の不特定多数の皆さま、男性 201 名、女性 254 名、合計 455 名からのご協力をいただきました。ご協力くださった皆さまに、厚く御礼申し上げます。内容の詳細は、後段に記載しましたので、是非ご一読ください。

4. テーマに対する問題点と対策について

①活動の担い手の「発掘」と「育成に」に成功している自治会町内会

- ・次世代が存在し、地域活動の必要性が良く理解され共助の体制ができている。
- ・今すぐバトンタッチできる人材が確保され、スキルアップの道筋ができている。

②自治会町内会の消滅が避けられないと感じているところ

- ・居住者の減少が続いており、物理的に人材が不足している。
- ・居住者はいるが、地域活動に関する人材の確保ができない。

③神奈川県のある地域では地域消滅の信号が出ている

平成 26 年 5 月 9 日 菅官房長官が人口試算「大きな警鐘」と題して、少子高齢化社会を「放置すれば極めて深刻な状況になるとの大きな警鐘だ」と指摘したうえで、「より具体的、抜本的な改革をしていくことが必要だと再認識した」と述べました。

また、全国 1,800 市区町村の半数に当たる 896 の自治体で平成 22 年からの 30 年間で 20～39 歳の女性人口が 5 割以上減るとの推計を発表しました。神奈川県でも三浦、松田、山北、大井、箱根、真鶴、湯河原、二宮、清川等の地域が深刻になると指摘されました。

④対策の考え方

仕方がないとか、どうにもならないという気持ちを捨てて、可能性を信じて経験のない未知の分野に取り組む姿勢が大事です。困難、^{かんなん}艱難を乗り越えて前進を積み重ねる日常の努力が問われる時代と感じます。

- * 自分の所で成功する条件をよく勉強する。
- * 国、県、市、区等の識者に相談し成功事例を学習する。
- * できない要因を問題提起して、理想と現実との差異をなくす。
- * 人がいなければ、人を迎えてでも町おこしを行う体制を整える。

5. 住民との話し合いを深める取り組み

住民の皆さまが本音の話し合いをする「たまりば」が集会場であり、自治会町内会会館等であると思います。共有できる共通の話題を提供しないと、話の深堀が進みません。

一例として、わが国には昔から「井戸端会議」や「飲みニケーション」なるものが存在し、楽しくて、好きな人が、来られる時間に、集合していました。そこで結構大切な情報がやり取りされ、人助けや社会参加、地域学習が行われてきたのです。学んで暮らす、生かされて生きる「共助生活」の仕方は、今も昔もこれからも、不変の原理原則、自然の摂理として通用すると思います。

人間からぶれることなく、その可能性を追求する営みが社会福祉、社会保障制度の根幹にないと、基本的人権の尊厳は維持できないと感じます。それ故に、地域力の向上を図る自治会町内会の存在は最重要課題です。このことを地域住民の皆さまに深くご理解いただいて、先ず地域活動に「できる時にできる人ができる分だけ、みんなです」という考え方を浸透させていくことが重要です。それをきっかけとして、地域活動を継続させていく中で、活動の担い手を我慢強く育成していくことを現在の町会役員が中心となって進めていく必要があると思います。

6. 提言に向けて

2年間の活動で得た地域活動の担い手育成の「発掘」「育成」問題は、各自治会町内会にはそれぞれ異なる事情（環境、歴史、世帯数、予算等）があり、その自主性や独立性等、尊重すべき事柄が多く、有効な提言、提案を見つけ出すにはまだまだ多くの情報と、協議する時間が必要と思われます。

つなぐ会として提言できることは、今後少子高齢化の影響で担い手不足を招く傾向は顕著になり、問題は深刻さを増すと思いますので、現体制に関する町会役員の皆さまには、住民が地域活動に関することの必要性や重要性を深く理解していただくための広報活動の在り方、方法等を研究していただき、一人でも多くの皆さまに地域活動の行事に参加していただくことで、魅力ある街づくりに協力できる仕組みを考えることが望まれるということです。

住民の皆さまへ

人は、社会とかかわりを持たずに暮らしていくことはできません。

自分の地域は自分で守るとの姿勢で町会役員を見守っていきませんか。

真面目に職務を果しておられる現在の町会役員に、どのような応援、支援ができるのかを感じて下さい。

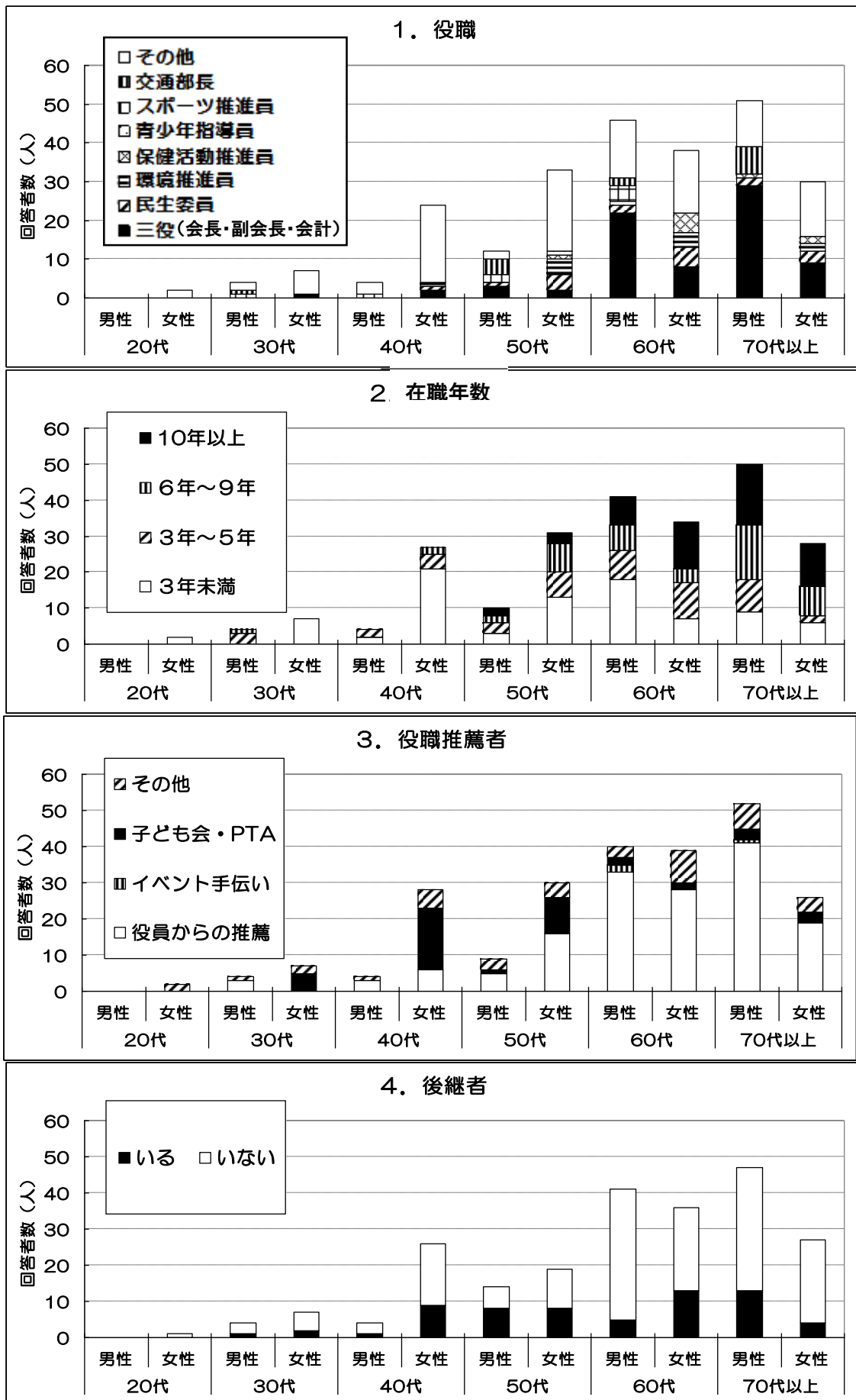
自治会町内会役員の皆さまへ

自分が現在の役職に就かれた経緯を振り返られると、「発掘」への手がかりが見つかると思います。自治会町内会の活動をされる際には、担い手になれそうな人を意識して巻き込み、どういう活動内容かを話し、そして将来的には任せていくことを目指して活動することが必要ではないかと提言します。

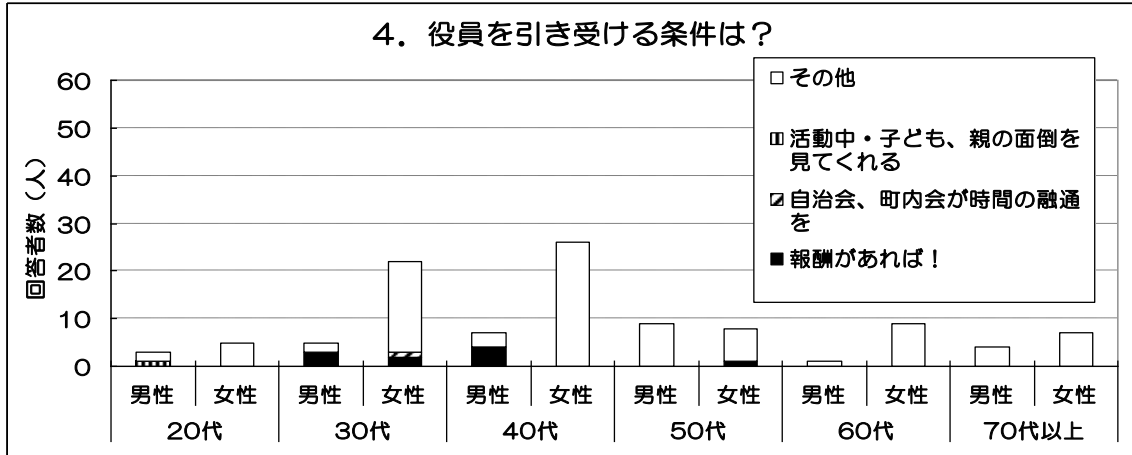
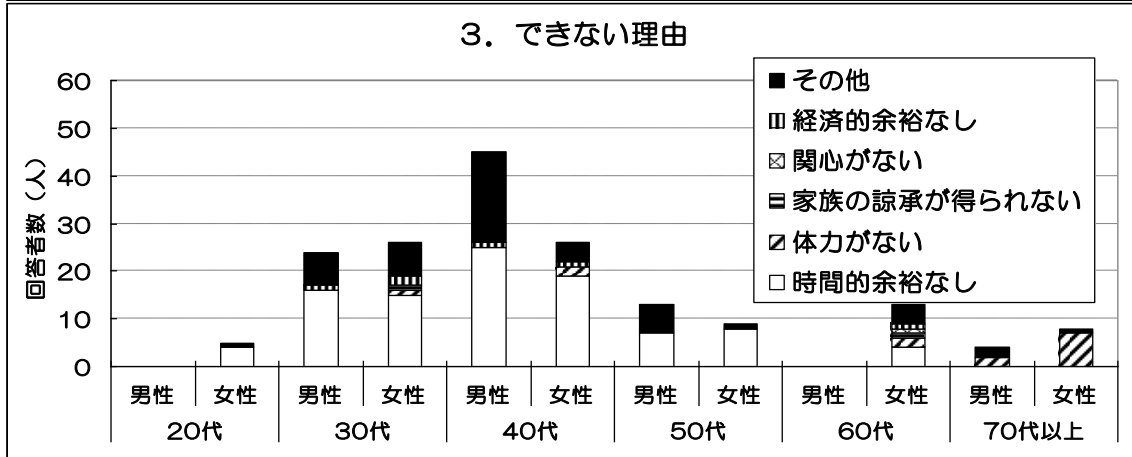
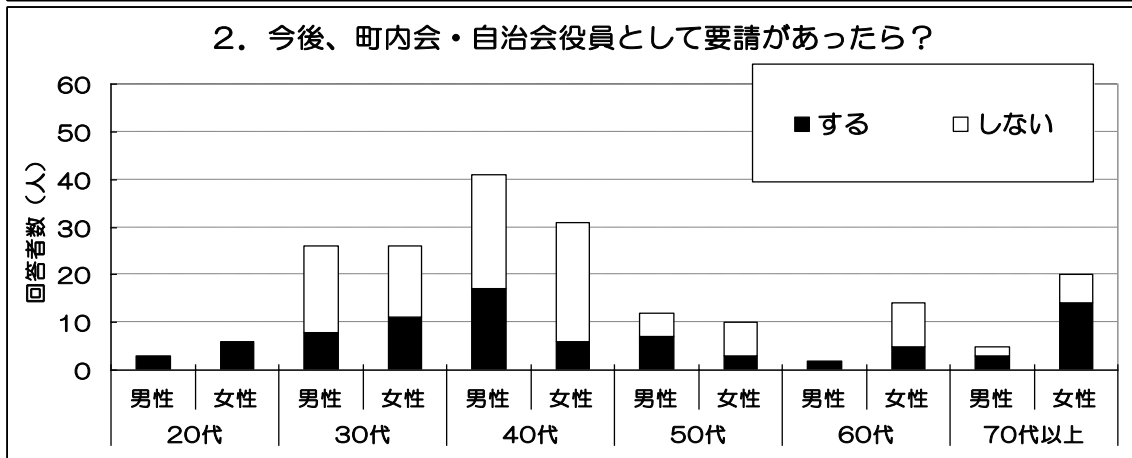
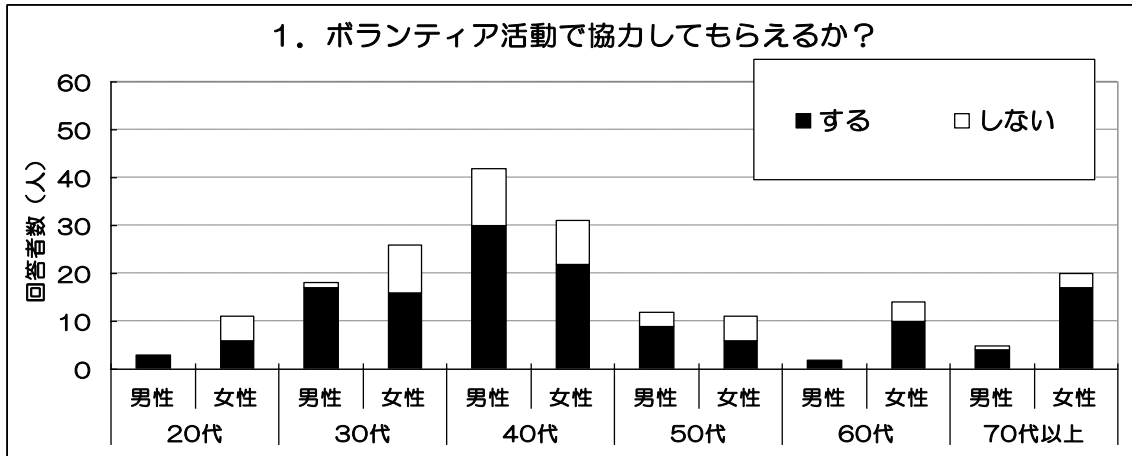
7. 結びにあたって

現町会役員の皆さまは、住民の皆さまの協力を得て、現在の活動を営まれているのですから、前途に希望をもって前進して良いと考えています。

町会・自治会の役員をしている



町会・自治会の役員をしていない



アンケート調査でのコメント 事例

30代 男性

- * 子どもが参加できるイベントを企画してほしい。

40代 女性

- * 家を新築して地域との繋がりに目覚めた。
繋がりを求めてきたが、手掛かりがなかった。
- * 住民が地域の活動内容を知る広報活動が必要である。
意識が低い、では済まされない課題である。
- * 一度引き受けると止められない環境がある。

40代 男性

- * 小学校までは祭りが楽しかったが中学になってクラブ活動、受験、就職と地域から離れていたが、自分の子どもが祭りを見たいと言うので 20 年ぶりに公園に来た。
祭りの内容の同じと違いに時代の変化を感じている。

50代 女性

- * 子どもの成長に伴って不要になった衣類を譲渡したいと祭りに参加している。少子化のせいなのか見に来る人が少ない。
- * 子どもの時に地域になじんでいないと、大人になっても地域がわからない。

50代 男性

- * 祭りや、炊き出しは楽しい、地域の団結の基本と感じる。
活動への依頼を真摯にお願いされたら断る理由がない限り協力します。

60代 女性

- * 地域に差別があり融和が難しい。役員は多忙すぎる実情がある。
ボランティアの内容を業務にして地域ビジネスを考えたい。
自分の仕事と両立できない実情がある。

60代 男性

- * PTA が町内会に関与できるシステムをつくる。
- * 防災が行政から肩代わりされている実情を考えないといけない。
- * 町内の会報が届かない。何回も広報して欲しい。
- * 経験者を活かせる支援体制のネットワークをつくるべきである。

70代 女性

- * 世代間の意識格差が大きすぎる実情に配慮する必要がある。

70代 男性

- * 地域のイベントや行事に来ない、参加できない住民対策を考えよ。

神奈川県民協議会 地域の担い手の育成についてのアンケート

神奈川県民協議会 地域の担い手の育成についてのアンケート

① あなたの年代・性別を教えてください。

20歳代：30歳代：40歳代：50歳代：60歳代：70歳以上

男性：女性

② あなたは現在、町内会・自治会の役員をしていますか。

いる

↓

1. 現在の役職をお教えてください。

三役（会長：副会長：会計）
民生委員：環境推進員
保健活動推進員：青少年指導員
スポーツ推進委員：交通部長
その他

2. 現在の役職に就いて何年になりますか？

3年未満：3～5年：6～9年：10年以上

3. どの様にして現在の役職に就きましたか？

★役員からの推薦 ★友人の推薦
★イベントのお手伝いをして
★子ども会・PTAの役員をして
★その他

4. 現在の役職を続けていける理由は、何でしょうか？

★家族の応援 ★会社の優遇制
★自治会町内会の時間の融通
★その他

いない

↓

1. 今後ボランティアとして、町内会・自治会活動に参加・協力して頂けますか？

する しない

2. 今後、町内会・自治会の役員として要望されたら、参加・協力して頂けますか？

する しない

3. 上の1、2の質問で「しない」と回答された方に、その理由をお聞かせします。


★時間的な余裕がない
★家族の了承が得られない
★関心がない
★その他

4. どのような条件を整えれば、役員をお引き受けいただけますか？

★活動の報酬を受けられる
★会社からの奨励、優遇制度がある
★自治会町内会が時間の融通を利かせる
★活動中子どもの面倒を見てくれる
★その他

その他で意見など、ございましたら記載願います。

ありがとうございました。



《つなぐ会 活動記録》

部会（22回）	平成 24 年 9/19,10/17,11/21,12/19
	平成 25 年 1/16,2/20,3/20,4/17,5/15,6/19,7/17,8/21,9/18, 10/16, 11/20,12/18
	平成 26 年 1/30,2/27,3/19,4/16,5/14,6/18
	平成 24 年 11/3 お祭り（神之木町西寺尾連合自治会・松見町連合自治会） 平成 24 年 11/24 防災訓練（神北連合自治会） 平成 26 年 1/26 地域のつどい（新子安地区、神西地区） 平成 26 年 2/27 地域のつどい（六角橋地区）

全 28 回の活動